

2019 年度アジア研修交流の活動報告

アジア研修交流事業担当 洪沢 浩二

今年度の「アジア研修交流プログラム」は、ミャンマーからエデン障がい児センター職員のヌンディさんをお招きし、7月30日から8月15日までの3週間の研修を行いました。

ヌンディさんはエデン障がい児センターの創立者の一人であり、障がい児支援の働きを長年続けてきました。ミャンマーでは、政府からの支援がほとんどない中で、主に寄付金によってセンターが運営されています。偏見と、理解が進まない社会で、障がい児を持つ保護者への働きかけや、地域の中で障がい児をどのように受け入れていくかが大きな課題であると語っていました。

初めての日本で、ヌンディさんは、天ぷらや寿司、煮魚、和食の付け合わせなどを好んで食べていました。特にアガペセンターの食事は故郷のチン族の食事と似ていると喜んでいました。

研修では、アガペセンター、アガペ東京センターの施設の他、えびな支援学校、松風園、神奈川県総合リハビリテーションセンター、精陽学園、しんわろネッサンス、こども医療センターを見学しました。特に児童発達支援や生活介護の事業所では、熱心にノートを取り質問をしていました。また、施設の職員が、利用者に対して優しく接している姿に感銘を受けていました。そして、利用者個人の必要に応じた計画書を作成し、丁寧にサービスを提供している姿を見て、学ぶ点が多かったようでした。

インクルーシブ教育の実践に対しても興味を持ち、どのようにして障がい者が普通の学校や地域社会に受け入れられているのかについても熱心に学んでいました。

社会の仕組みや福祉制度、経済的事情も異なるミャンマーで、すぐにできること、今後取り組んでいきたいことなどを整理し、今できるところから実践していきたいとの意気込みを語っていました。

余暇活動として、上野の東京都美術館や江戸東京博物館、横浜の歴史博物館やカップヌードルミュージアムを訪れ、日本の歴史文化に触れる機会を持ちました。また、広島への日帰りツアーを計画し、原爆ドームと平和記念資料館を見学しました。これらの文化交流を通して、互いの国の文化の違いを理解するとともに、人類共通の願いである平和について深く考える機会になったようです。週末には、通訳をしてくださったサンサン牧師の杉並中通教会に宿泊し、礼拝に集うことで、在住のミャンマーの方々との交流の時を過ごしました。

短い研修期間でしたが、帰国後は、引き続き障がい児者支援に活躍されることを大いに期待しています。



施設を見学する研修生ヌンディさん(中央)



閉講式 チン族民族衣装のヌンディさん(中央)